

『川は流れる』

岐阜分室長 大河内 八郎

「病葉を今日も浮かべて、街の谷川は流れる、ささやかな、望み破れて…」と昔、仲宗根美樹が歌っていたなど今、柳ヶ瀬を流れる川を見て、ふとこんな歌を思い出した。



【夜のアクアージュ柳ヶ瀬】

アクアージュ柳ヶ瀬（忠節用水）はこんな情景を思い出さ

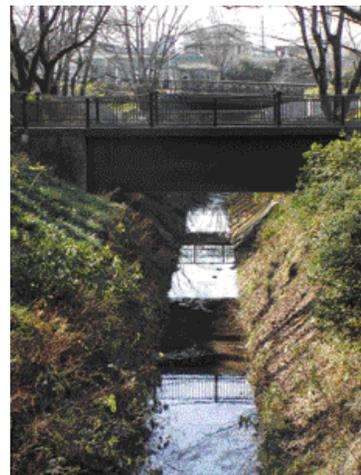
せてくれた。若かりしとき通った柳ヶ瀬の飲み屋を思い出す。夏の暑いとき、この用水を追って水路系統を調べたこと。その当時（昭和44年）水路は既に通路として蓋がされ、川が流れていることすら知らない飲み屋のママ達であった。その水源は岐阜城の麓の長良川から毎秒120立方尺（3 336トン）取水し、灌漑面積2285ha、水路延長5500mを持つ農業用水で市内を数条の幹線水路が走っている。この水路は、ハヤ、オイカワ、コイ、フナなどが泳いでいる。また水路のまわりには、煉瓦通りにベンチ、花壇、噴水等が配置され水辺空間を作りあげている。この通りは、ティーンズからヤングまでのファッションコーナーや喫茶店等の店がありコミュニティ水路として、柳ヶ瀬の中央部に川を中心にした街づくりがなされている。水路は平成8年に完成し、市民の憩いの場・コミュニティの場として環境整備され、水路延長167m、事業費3億9千万円で作られたものです。川（水路）の存在を知らない市民には良い刺激となった。何故ここに川が……。前からあったの……。知らなかったと……。

しかしながら忠節用水の名はどこにも見あたらない、この水路の歴史は古く永禄10年（1567年）に取水を開始した歴史ある農業用水である。織田信長の天下統一のため、この忠節用水で灌漑され、収穫された米が一役を担った水路と考えると意味深く考え

させられる水路である。今では農業用水としての役割はほとんどなく都市環境用水、公共雨水排水路、冷房用水の排水路として利用されている。水路は地域の川として、川のある街として親しまれ歴史と共に性格を変え、また新しく生まれ変わり歴史を作ってきた。水は非常にきれいでもっと多くの人々が散策に利用でき、水の町、岐阜をいどるコミュニティ水路としてさらに進めて欲しいと思うのです。

鶺鴒の町でだけでなく水の町、岐阜を作ることが必要であろう。現在水路に流れている水は、水源の長良川からの取水でなく（河床低下で取水口が干し上がっている。）金華山山麓からの湧水や雨水等が水路に入り水は絶えず流れているものの水量が少なく（特に冬）もう少し必要である。現在水路は、伊奈波通りまでの約2 2キロほどは開水路となっていて、夏にはときおり蛍も見られ、「蛍を大切にしませう」の自治会の看板も見られた。これから先の水路はアクアージュ柳ヶ瀬を除きすべて蓋をされ道路敷きとなっている。雨水排水・道路排水・冷房排水の川となる。（岐阜市の下水は分流式）

岐阜は、1567年に織田信長が天下布武の号令のため井之口を岐阜に改められた由緒ある地名である。今、42万人を擁する県都として、また鶺鴒で全国に知られている町である。清流長良川に抱かれた町、岐阜をもっともっと活性の



【岐阜公園内を流れる水路】

ある町にさせるためにも先祖が残してくれた忠節用水を、この水路を有効活用し、観光都市岐阜の名勝づくりにこの川を活用することが必要である。